

人の健康のための社会的・経済的付加価値の創造と新北海道開拓 -食と環境と観光の重要性-

日時:2010年3月9日(火) 14:00~

場所:日本アクセス北海道株式会社 2階会議室



西村 孝司

Takashi Nishimura

プロフィール

北海道大学遺伝子制御研究所 免疫制御分野 /ROYCE' 健康バイオ部門教授
NPO法人イムノサポートセンター 理事長

1953年北海道木古内町生まれ。東北大学大学院薬学研究科修了、米国ハーバード大学医学部ダナファーバー癌研究所留学、東北大学医学部第三解剖学講座助教授、東海大学医学部助教授、遺伝子工学・細胞移植研究センター次長等を経て平成11年9月より現職。「免疫バランス制御法の癌、アレルギー、自己免疫病などへの応用」を研究する免疫学者。平成15年には新しい癌免疫治療を実践するため第1号の北大-産総研ベンチャーリング(株)バイオイミュランスを創設、平成21年会長取締役に就任。また、イムノリゾート構想を実現するために食・健康・環境・医療と観光を結びつけたライフスタイルイノベーションやヘルスツーリズムを提唱、平成18年「NPO法人イムノサポートセンター」設立に参画、理事長に就任。

人は誰しも健康に生きたいと願っている。しかし、今、外部環境ばかりではなく、ヒト体内環境も破綻してきている。特に、明日を担う、子供たちや若者の体が危ない。昔はあまり耳にしなかったアレルギーが年々増加し、免疫抵抗力が弱い子供が急増してきている。小学校5年生で糖尿病になる子供の話は珍しくはない。子供をつくる能力が無い成年男子が増えている。この数十年に増加してきている異変であり、体内環境破綻の警鐘とも言える。ハンバーガーの売り上げと平行して増えてきたこれらの異変の要因には、「お袋」の味が「袋」の味になり、とれた「お」が「しつけ」について「おしつけ」になった、間違った食事とストレスフルな生活が第一にあげられる。あまりにも奇麗すぎる環境で、泥んこ遊びもさせない子育て環境が子供の免疫抵抗力を弱くしているという考え方もある。

100年に一度の世界不況、環境破壊、そして体内環境の破壊等、世界中で問題になっているこれらの課題を解決するにはどうすれば良いのか？実は、その解決に必要な素材は全て北海道に備わっていると言える。健康に良い食材、健康に良い奇麗な環境に付加価値を付与して、課題解決型のメッセージを世界に発信できるような北海道ブランドを創造することによって、新北海道開拓が実現できるチャンスは十分ある。便利さと利益のみを追求した社会的・経済的基盤創造が失敗した今、「人間」「人の健康」をキーワードにした社会的・経済的付加価値の創造が重要になる。この新たなチャレンジにおいて北海道は大きな優位性をもった可能性の大地と言える。特に、「食、健康、環境、医療」を結びつけた「食と観光」をキーワードにした取り組みが新北海道開拓には必要である。

以上の产学官民の食産業に関わる北海道の新しいチャレンジは来場者のご支援と積極的な協力なしでは実現不可能であることを理解していただき、議論をしたいと考えております。また、北大で科学的な付加価値を付与した幻の黒大豆、北竜町、黒千石や新食品加工技術でできたネピュレに付いても食産業の方々に評価していただきたいと考えております。



道内各地に於ける NPO法人イムノサポートセンター ヘルスツーリズムの取組み

食育の体験学習



三世代スポーツゲームズ
(洞爺湖町)



支笏洞爺エリア

ヘルスツーリズム
食育勉強会

ヘルスツーリズム推進



スギ花粉疎開ツアー(上士幌町)



NPOイムノサポートセンターの取組みは右記ホームページをご覧下さい。

連絡先:【事務局専用携帯】080-6074-6183 / 【e-mail 1】info@immuno.jp 【e-mail 2】imm-reg2@igm.hokudai.ac.jp

<http://www.immuno.jp/>